教職科目A，道徳教育指導論

「授業の明日に向けて　－　2009年度」

学校教育（教育学）・伴野昌弘

１・授業の概要と工夫

本年度の工夫として、受講生が教育現場で道徳の授業を即、担当可能な実践的視点の導入に配慮した。さて、本授業は、教育学部の２回生を対象とした教職専門科目（必習）である。77名の受講生は、３・４回生で教育実習を行う。それ故、本授業は、シラバスの授業目的に示したように、原理的かつ実践的内容も視野に入れ、次のような二部構成である。即ち、前半部（13回）は、筆者による基礎的原理的な講義であり、後半部(2回)は二人の実地非常勤講師（亀井壽一先生・亀岡マリ子先生）による実践的な講義である。前半の筆者による講義に於いては、本年もシラバスの授業目的「道徳とは何か、道徳性の発達や道徳教育の理論・歴史・方法論について学び、道徳指導の実践力を身に付ける。」が達成されるよう各回の授業項目に則して講義した。以下五つの到達目標を記し、授業を概観しよう。

到達目標（１）「人間にとっての道徳の必要性を理解し、道徳及び道徳教育とは何かについて説明できる。」これは授業項目の第１回から第３回に対応し、道徳への興味付けのため、最も工夫した箇所である。本年も現代詩「ゆうやけ」を口述筆記で鑑賞させた。そして意見を聞き、レポートも課し、道徳的感性に目覚めさせた。また結果論的・動機論的判断を示したが、興味を惹いた。到達目標（２）「道徳性の発達に関する諸理論を学び、問題点を指摘できる。」これは授業項目の第４・５回に対応し、コールバーグの説を中心に考えたが、興味を惹いた。到達目標（３）「道徳教育の諸理論と歴史を学び、各理論の道徳観、指導過程を説明し、問題点を指摘できる。」これは授業項目の第６・７回に対応し、本授業の中核である。工夫として、過去に受けた道徳授業を先ず反省させた。そして、小中学 校の教師であれば、教科を超えて誰しも道徳の専門家でもあるという事実を理解させた。意外と興味を惹いた。到達目標（４）「現行の学習指導要領及び解説道徳編等から道徳教育の目的・内容・方法について学び、それらを説明することができる。」これは授業項目の第８回から第１０回に対応し、道徳に関わる教師の実践力、基礎教養の醸成に重要である。工夫としては「絵本」（意外と興味を惹く）など多様な副読本を紹介し、その教材としての意味を理解させた。指導案の書き方にも関連付けたが、時間不足であった。到達目標（５）「上記の学習を通して、暫定的な自分なりの道徳教育観を持ち、道徳の授業をデザインし、指導案を作成することができる。」これは授業項目の主に第１１回から１４回に対応した。実践的で重要な目標であるが、現段階で到達困難と言えるかも知れない。しかし、本年担当者が最も心を砕いた箇所であった。また本年も非常勤の二人の先生方の温かいご指導御協力のお陰で目標達成に専念でき、心から感謝している。

２・学生達の反応

本年も授業全般に関わる感想、意見、印象的な点を自由に記してもらったが、代表的なものを次に記そう。①第1回目の詩（ゆうやけ）の紹介が新鮮で授業に引き込まれた。（多数）②道徳の奥深さを知り、道徳観が変わった。③各教科を超えて、道徳の専門家である点、驚いた。④出席の取り方、心温まる。今後も続けて欲しい。⑤非常勤の先生を含め、教育内容を毎回工夫され感動した。

3・総括と反省

二人の実地非常勤講師の御協力もあり、授業全般は学生にとって概ね満足のゆくものであった。しかし、担当者として次の点は反省しておきたい。即ち、指導案作成の指導に一層重点を置き、指導方法も更に工夫すること。その際グループ討論も一方策として導入すること、等である。